



アステリア株式会社 年頭所感

コロナ禍を超えて「戻さずに、進める」経営が差をつける VUCA 時代に向けてウェルビーイング向上と生産性向上の両立を実現

熊本の皆さん、あけましておめでとうございます。

2022年、社会は振り返ると、全世界的なコロナ禍の克服に向けた動きで、ウクライナははじめとする地政学的な課題の噴出で、激しく為替の変動で、どぎゃん企業も産業も、そんな変化への適応は強いられた年でした。

そぎゃん中で、アステリアは、再編された東証プライム市場の上場企業になり、社会的責任はより求められる立場となりました。熊本 R&D センターも3年目となり、世界に向けたブロックチェーンなど最先端の技術開発を行っています。事業としては、中核となるソフトウェア事業はもうごつ成長し、デザイン事業もたいぎゃな伸びました。これら2つ事業は中期経営計画 STAR の重点項目にしとるトップライン（売上）の成長にたいぎゃ寄与しました。さらに、企業投資事業でも投資先の1社が米国 Nasdaq に上場は果たしました。

人材、組織面においては、CXO、CSO、CWO という新規分野のエキスパートが新たに就任。さらに国内市場に向けたデザイン事業部も新設して、将来の成長は支える組織としても力強さは増しました。

2023年においては、世界的なコロナ禍の収束が期待される一方で、世界はさらに VUCA の様相が強まるという予想が専門家から出とります。こぎゃん状況において企業に必要なこつは、様々な活動はコロナ禍前に「戻す」とではなく、この3年間の知見と経験は活かして事業や活動は次のステップに「進める」こつ。2023年は、「戻す」企業と「進める」企業で大きな差がつく年となるとは間違いなかでしょう。

アステリアは、進めます。成長の源泉である人材においては、ウェルビーイング向上と生産性向上の両立をば実現するための「オフィスの5次元化」は推進します。本社オフィスは極限まで縮小し、一方で全国に700ヶ所以上のサテライトオフィスは展開。ホームオフィスへの快適化投資は続けるとともに、新しかコンセプトのリゾートオフィスは建設します。

アステリアが得意としてきた「ノーコード」の推進活動も数多くの企業や自治体の賛同は得て、さらに力は入れていきます。そして、当社のノーコード製品 Warp、Platio、Gravio、新製品の Handbook X などによって日本企業のソフトウェア文化の改革に貢献は続けます。

来年度は中期経営計画 STAR の最終年度です。昨年までの順調な進捗と先行投資は礎に、「仕上げ」の年として計画達成に尽力していきます。本年も、がまだします。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2023年1月1日
アステリア株式会社
代表取締役社長／CEO

中野 洋一郎

